

岡戸武平 たけひら 小説家。明治二十年十一月二十一日愛知縣知多郡横須賀生れ、昭和六十一年八月二十一日歿（八七—一九六）。小學校教員、新聞記者を経て小酒井不木の文筆助手となる。不木没後博文館に入り『文藝俱樂部』編輯員も、昭和七年該誌廢刊と共に退社して作家生活。『文藝建設』同人。二十五年愛知縣文化功勞者。

著書 『新書劇酒術』（昭和十六年八月）『二十の學藝社』、『延年神樂歌』（昭和十七年二月五日奥川書房）、『紅筆勤妖狀』（昭和十七年五月十九日奥川書房）、『小泉八雲』（昭和十八年四月）『千五百大日本雄辯會講談社』『日本小説新書』）、『トマト王蟹江一太郎』（昭和二十年七月八日愛知・上野町教育委員会）、『伊勢町物語』（昭和二十七年十一月十五日愛知・中部經濟新聞社）、『上と炎—日本陶器の歩んだ道』（昭和四十二年四月十日愛知・中部經濟新聞社）等。

